



泡瀬京太郎

2012年10月6日から7日にかけて、コザミュージックタウンで開催された「根音ウマチー」の一コマである。

泡瀬地区には、干潟等の自然環境以外にも、大変貴重な沖縄の文化が残され、現代に継承されている。京太郎（チョンダラー）とは「京都から来た太郎」を指し、数々の芸を演じた門付け芸人とその芸能の意味である。琉球王朝の17世紀初期ごろ本土から沖縄に渡ってきたといわれ、明治初期頃まで中南部まで出かけ、祝儀には万歳を奏し、余興に鳥刺し舞や馬頭をつけた踊りを演じた。泡瀬の京太郎は明治39年にコー（がん）の仕立祝・泡瀬ビジュアルと川之毛の改修の祝いの出し物として泡瀬で上演されたのが始まりで、平成17年には「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として国選択を受けた。「エイサー」の主流になったのは、首里の「安仁屋村」から発生した「門付け芸」の「京太郎（チョンダラー）」である。「京太郎」は、京都からきた「傀儡師」（一名くぐつ師ともいう）というあやつり人形を使う人たちである。

普段耳にするエイサーの音楽とは異なり、かなり厳かである。いにしへの沖縄文化が、今も泡瀬には残っている。

